

野山の花

— 身近な山野草の食効・薬効 —

城西大学薬学部 白瀧 義明 (SHIRATAKI Yoshiaki)

オニユリ *Lilium lancifolium* Thunb. (ユリ科 Liliaceae)

梅雨が終わり、暑い夏の訪れる頃、山麓の山道を歩いていると茂みの中で濃いオレンジ色の花弁に濃褐色の斑点をつけたユリの花を見かけることがあります。これがオニユリです。オニユリは、中国、朝鮮半島、日本に自生し、北海道から九州の平地・低山にかけて普通に見られます。今では、観賞用に庭などに植えられ、園芸植物として定着していますが、中国からの渡来種と言われ、草丈1～2mになる大型のユリです。花には、雄しべが6本あり、葉は互生、先端がゆるく尖った披針形で、茎は紫褐色で細かい斑点があります。地下にある鱗片葉をビャクゴウ（百合、Lilii Bulbus）といい、消炎、鎮咳、利尿、鎮静作用があるとして、漢方では、慢性化した咳、血痰、熱病の余熱の下がらないもの、精神恍惚状態、脚気浮腫などに鎮咳去痰薬、精神安定薬の目的で、辛夷清肺湯、百合知母湯、百合地黄湯などの処方に配剤されます。成分はフェノールグリセリドおよび、配糖体の1-O-p-coumaroylglycerol, 3,6'-O-diferuloylsucrose, regalosite A, Fなどが知られ、基原植物の一種であるハカタユリ *L. brownii* からはステロイドサポニンの brownioside, ステロイダルアルカロイド配糖体の β_1 -solamargine などが報告され、テッポウユリ *Lilium longiflorum* からは regalosite B, D, E など報告されています。これらのユリの鱗片葉は薬用としてはもちろん、食品としても有用です。

北陸地方を除く近畿地方以北の東日本に分布するユリにヤマユリ *Lilium auratum* があります。ヤマユリは、日本特産のユリで、山地の林縁や草地に生え、草丈は1～1.5m、花期は7～8月、花は花弁が外に弧を描きながら広がり、直径20cm以上にもなる大きな花を1～10個咲かせ、その大きさはユリ科の中でも最大級です。普通、花の色は白色で花弁の内側中心には黄色の筋、紅色

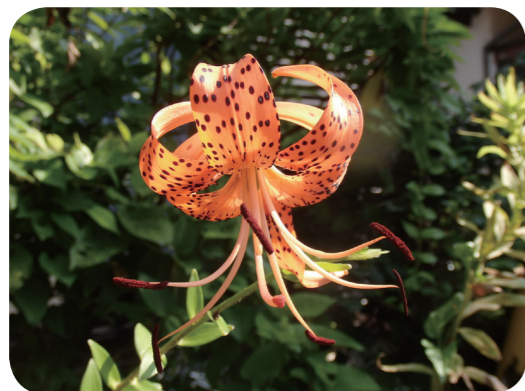


写真1 オニユリ (花)



写真2 オニユリの地下部 (根、鱗片葉)



写真3 ヤマユリ (花)



写真4 ヤマユリの地下部 (根、鱗片葉)



写真5 ササユリ (花)

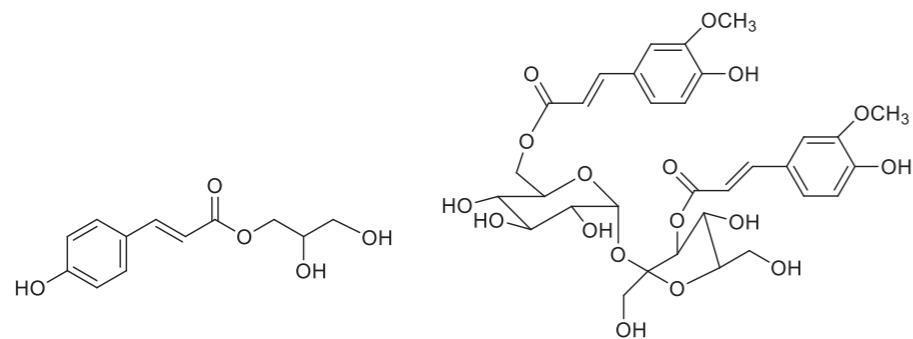


写真6 テッポウユリ (花)

の斑点があります。花の香りはとても強く、甘く濃厚です。発芽から開花までには少なくとも5年以上かかり、株が古いほど多くの花をつけ、風貌が豪華で華麗であることから“ユリの王様”と呼ばれています。鱗茎は扁球形で10cm位の大きさになり、オニユリ同様、ユリ根として食用になります。多糖類の一種であるグルコマンナンを多量に含み、縄文時代には既に食用にされていたようです。一方、本州中部地方以西から四国・九州に分布するユリにササユリ *Lilium japonicum* があります。ササユリも日本特産で日本を代表するユリの一種です。地域によっては、本種をヤマユリと呼ぶこともあります。成株の茎は立ち上がり、葉はやや厚みがあり、互生、披針形で長さは8～15cm、5～7月に淡いピンク色の花を咲かせます。花被片の長さは10～15cm、ロート状に反り返り、芳香を放ちます。花粉の色は赤褐色で葉や茎がササに似ていることから名づけられました。10～11月に蒴果が熟し、種子は風に乘って広がりますが、初花を咲かせるまでに7年以上もの歳月がかかります。古事記には「山由理草」と表記、「元の名を狭草



写真7 生薬：ビャクゴウ (百合)

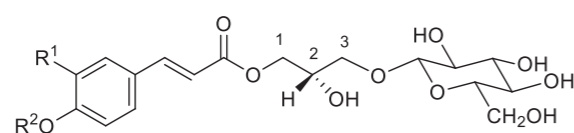


1-O-p-coumaroylglycerol

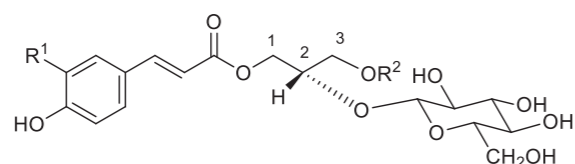
3, 6'-O-diferuloylsucrose

(さみ) という」と記され、神武天皇が奈良県の狭井川のほとりを通りかかり、後に皇后となった伊須氣余理比売命（別名、姫踏鞴五十鈴姫命）に会われた時、ササユリが咲いていたそうです。現在でも、ササユリは毎年6月17日に行われる率川神社の三枝祭で奉納されています。日本の南西諸島および九州南部に分布するユリにテッポウユリ *Lilium longiflorum* があります。本植物は、本州以東では園芸用に移入されたものが分布していますが、草丈が0.5～1m、楕円形の長い葉をつけ、葉脈は水平方向に入り、原産地での花期は4～6月、茎の頂上に純白で細長い花を横向きにつけます。花の長さは10～15cm、直径5cmほどで、花弁は6枚あるように見えますが根元でつながっていて筒状になっています。

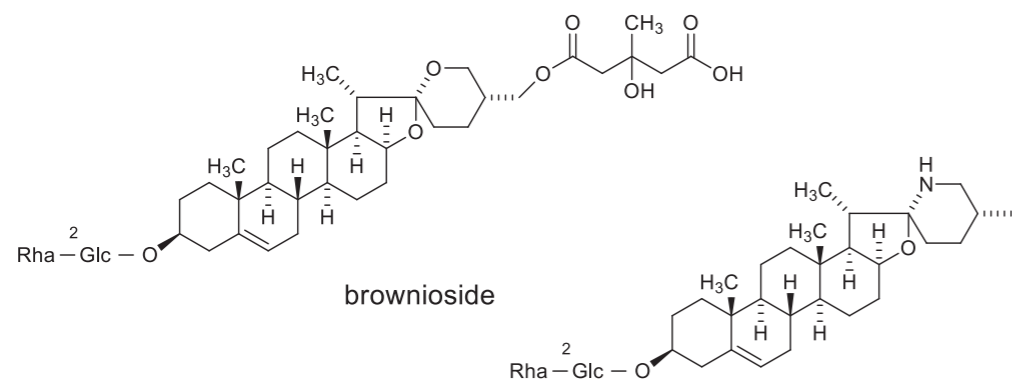
注) 日本薬局方では、オニユリ *Lilium lancifolium*、ハカタユリ *L. brownii*、*L. pumilum* など、数種のユリの鱗片葉を生薬、ビャクゴウ（百合、Lilii Bulbus）としています。



	R ¹	R ²
regaloside A	H	H
regaloside F	OCH ₃	H



	R ¹	R ²
regaloside B	H	COCH ₃
regaloside D	H	H
regaloside E	OH	COCH ₃



Glc = Glucose
Rha = Rhamnose

β_1 -solamargine

図1 成分の構造式